

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月号発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。  
e-mailでgpjimu@tenmon.or.jp宛、なお、原稿も必ず0422-31-5487迄Faxでお送り下さい。

人事公募

京都大学大学院理学研究科  
宇宙物理学教室教官

1. 教授1名
2. (1) 京都大学大学院理学研究科宇宙物理学教室
3. 天体物理学
5. (1) 決定後なるべく早い時期
7. 履歴書、論文リスト、主要論文別刷、研究歴、研究計画書
8. 平成10年11月26日(木)必着
9. 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町  
京都大学大学院理学研究科宇宙物理学教室  
主任 大谷 浩 TEL: 075-753-3894
10. 封筒に「応募書類」と明記すること。  
郵送による場合は書留とすること。

東京工業大学・理工学科・基礎物理学専攻助手

1. 助手1名
3. 宇宙物理学(理論)
5. (1) 決定後なるべく早い時期、遅くとも1999年4月1日
6. 博士号取得者か取得見込みの方
7. (1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 業績リスト、(4) 主要論文別刷5編以内
8. 1998年12月18日(金)必着
9. 〒152-8551 目黒区大岡山2-12-1  
東京工業大学・理工学専攻科・基礎物理学専攻  
細谷暁夫
10. 封筒に「応募書類在中」と朱書き、書留で送付のこと。

国立天文台教授

1. 教授1名
2. (1) 光学赤外線天文学・観測システム研究系  
(2) 東京都三鷹市(近い将来ハワイ勤務もありえます)
3. 光学赤外線天文学分野
4. すばる望遠鏡の試験観測から共同利用観測の確立にむけてプロジェクトを積極的に支援するとともに、すばる望遠鏡を用いた観測的研究や開発的研究で、若手研究者と院生を指導して光学赤外線天文学分野をリードする教授を求めます。
5. 平成11年4月1日以降なるべく早い時期
6. 大学院博士課程修了、又はそれと同等以上
7. (1) 略歴書、(2) 研究歴(これまでの研究内容の概要を含む)、(3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと)及び主要論文別刷、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先、(6) 他薦の場合は推薦書の他に、前記事項(1)~(5)の概要がわかる書類
8. 平成10年12月4日(金) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1  
国立天文台長 小平桂一  
(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1  
光学赤外線天文学・観測システム研究系主幹  
安藤裕康 TEL: 0422-34-3521
10. 封筒の表に「光赤外線教授人事応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。なお、外国籍の方の場合は任期を定める場合があります。

1. 教授 1名
2. (1) 電波天文学研究系  
(2) 東京都三鷹市または長野県南佐久郡南牧村野辺山
3. 電波天文学(太陽電波分野)
4. 電波天文学研究系の太陽電波分野では、電波ヘリオグラフおよび「ようこう」による観測的研究とデータの共同利用の推進を行っています。また宇宙科学研究所と国立天文台が中心となって推進している次期太陽観測衛星 SOLAR-B 計画の一翼も担っています。今回の公募では、SOLAR-B 計画を積極的に推進するとともに、現有装置による観測的研究も進める教授を求めます。
5. 平成11年4月1日以降なるべく早い時期
6. 大学院博士課程修了、又はそれと同等以上
7. (1) 略歴書、(2) 研究歴(これまでの研究内容の概要を含む)、(3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区

別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと)及び主要論文別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合は推薦書の他に、前記事項(1)~(5)の概要がわかる書類

8. 平成10年12月11日(金)必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1  
国立天文台長 小平桂一
- (2) 〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山  
国立天文台電波天文学研究系主幹 中井直正  
TEL: 0267-98-4392 E-mail: nakai@nro.nao.ac.jp
10. 封筒の表に「電波天文学教授応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

1. 教授1名
2. (1) 理論天文学研究系  
(2) 東京都三鷹市
3. 理論天文学
4. 全国の理論研究者との連携を保ちつつ、観測天文学を視野に入れて、理論天文学を指導的に推進する教授を求めます。
5. 平成11年4月1日以降なるべく早い時期
6. 大学院博士課程修了、又はそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴(これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと)及び主要論文別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合は推薦書の他に、前記事項(1)~(5)の概要がわかる書類
8. 平成10年12月18日(金)必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1  
国立天文台長 小平桂一
- (2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1  
国立天文台企画調整主幹 観山正見  
TEL: 0422-34-3738 FAX: 0422-34-3746  
E-mail: miyama@yso.mtk.nao.ac.jp
10. 封筒に「理論教授応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

## 研究会・集会案内

### 国立天文台共同利用研究会「太陽系外縁部に関する研究会」のご案内

開催日時: 11月24日~25日  
開催予定場所: 国立天文台三鷹コスモス会館会議室

1992年、冥王星の外に小天体1992QB1が発見されて以来、大型望遠鏡と高感度CCD素子が太陽系の地平線を広げつつあります。外縁部に発見されたエッジワース・カイパー・ベルトに属する小天体の数は、現在までに、すでに70個を越えています。しかし、まだその空間的な広がりにはせいぜい50天文単位にとどまっています。

これらの小天体は、おそらく惑星にまで成長できなかった微惑星と考えられています。したがって、エッジワース・カイパー・ベルト天体は「惑星形成過程の化石」であり、ベルト構造の解明は太陽系惑星形成論へ新たな課題を与えるでしょう。また、このベルトは短周期彗星の故郷とも考えられており、内部太陽系への力学的進化や軌道運動の研究は、天体力学上の新たな問題を提示しています。さらに、木曾広視野CCDカメラや稼働間近のすばる望遠鏡の主焦点広視野CCDカメラは、まだ見ぬエッジワース・カイパー・ベルトのさらなる広がりを知るための世界的に見て究極の装置と期待されています。

本研究会は、「惑星形成論」「天体力学」「サーベイ」の各分野の研究者が集まり、エッジワース・カイパー・ベルトを巡る現状認識を共有し、将来の観測に向けた展望を議論するために企画したものです。観測、理論、などのレビューに加え、すばる望遠鏡の装置などの紹介、電波観測の可能性や、他の惑星系の観測の現状なども議論の対象に含めたいと思います。講演申し込みの自薦他薦をお願いするとともに、多くの皆さんの参加を期待します。

世話人一同: 山本哲生, 香内 晃(北大), 中沢 清, 井田 茂(東工大), 向井 正(神戸大), 木下 宙, 渡部潤一(国立天文台)

LOC: 関口朋彦, 阿部新助, 布施哲治(総研大) 山本直孝, 木下大輔(東理大)

本研究会に関する連絡先: 国立天文台 渡部潤一

TEL: 0422-34-3638  
watanabe@pub.mtk.nao.ac.jp

加藤正二京大教授退官記念研究会  
「活動する宇宙—天体活動現象の物理」

日 時：1998年11月16日(月)～17日(火)  
場 所：京大会館  
内 容：太陽，星，降着円盤，銀河における活動性の物理を統一的に理解することを目指し，天体活動現象における磁氣的機構と非磁氣的機構を比較し，議論します。研究会は招待講演を中心として，各分野の研究者に院生，若手研究者向けの講演を行っていただきます。多数，ご参加いただけますよう，お願いいたします。  
世話人：柴田一成，福江 純，松元亮治，嶺重 慎  
連絡先：千葉大学理学部物理学教室 松元亮治  
電話 043-290-3724 FAX 043-290-3720  
e-mail : matumoto@c.chiba-u.ac.jp

文部省科学研究費特定領域（重点領域）  
「高エネルギー天体」平成10年度研究会

日 時：1998年12月9日(水)から12日(土)  
場 所：日経連人材開発センター富士研修所（河口湖）  
山梨県富士吉田市新屋1400  
電話 0555-22-5156  
内 容：平成7年度に発足した科研費重点領域「高エネルギー天体」の研究会を，○パルサー，超新星残骸，○活動銀河，○正体不明の高エネルギーガンマ線源，○ガンマ線バースト，○ショックや相対論的ジェット，などを主題として行なう。  
定 員：約80名，参加費無料  
申し込み期限：宿泊予定の場合は11月末頃までの連絡が望ましい  
連絡先：〒188-8502 田無市緑町3-2-1  
東京大学宇宙線研究所空気シャワー部  
木舟（研究会内容について）  
tkifune@icrr.u-tokyo.ac.jp  
藤井（参加申し込みなど）  
naoko@icrr.u-tokyo.ac.jp  
TEL 0424-69-9594 FAX 0424-62-3096

「中性子星の誕生と進化：観測と理論の新展開」研究会

主催：東京大学理学部初期宇宙研究センター(RESCEU)  
日時：1998年12月24日(木)～26日(土)  
場所：東京大学理学部4号館1220号室  
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

内容：キロヘルツ準周期的振動，強磁場星， $\gamma$ 線バースト，ミリ秒X線パルサーなど，最近の観測の成果が中性子星の最大質量や重力崩壊型超新星爆発の機構・エネルギーなどに新たな問題を提起しているという現状を踏まえ，関連分野からの研究成果を持ちより新たな研究の方向性を見出す場とする。○重力崩壊型超新星爆発（機構，元素合成， $\nu$ 輸送， $\gamma$ 線バースト）○中性子星の構造・進化（回転，磁場，温度）

定員：30～50名  
参加費：無料  
講演・参加申込締切：1998年10月31日(土)  
○氏名，所属，身分，連絡先住所，電話，Fax，e-mail address，講演希望者は題目・およその所要時間，○旅費補助希望の有無をお知らせ下さい。  
連絡先：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学理学部物理学教室 飯田 圭  
電話：03-5802-3359 Fax：03-5684-9642  
e-mail: iida@utaphp6.phys.s.u-tokyo.ac.jp  
世話人：飯田 圭，長滝重博，山田章一（東大理）

会務案内

日本天文学会早川幸男基金受給者募集要項

日本天文学会 早川幸男基金（若手海外学術研究援助基金）内規に基づき\*，海外学術研究に対して援助を希望する者を募集致します。（1999年度第1期）

1. 援助金総額 年間200万円（1999年度）
2. 援助件数 年間10件程度
3. 募集対象期間 1999年1月1日～3月31日の間に日本を出発するもの，また前回の応募時に間に合わず，すでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい。
4. 応募必要書類（A4紙に統一すること）  
原本1部，コピー5部。但し(7)，(8)についてはコピー不要。  
(1)応募用カバーシート（91巻5号234頁の応募用紙をA4に拡大コピーして使用する），e-mailアドレスを余白に入れる。  
(2)論文リストを含む研究業績  
(3)観測については，観測割当通知および観測提案の写しか，それに準ずるもの  
(4)国際共同研究については，渡航先の招聘状および研究計画の概要  
(5)研究集会参加については，当該研究会開催の主旨を説明する資料，プログラム，および応募者の寄与（口頭発表等）を証明するもの

- (6) 大学院生の場合, 研究指導者の意見書
- (7) 航空運賃の見積書
- (8) 関連研究論文の写し (一編)
- 5. 応募締切: 1998年12月10日必着
- 6. 決定時期: 1998年12月下旬通知します.
- 7. 応募書類送付先:

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
 国立天文台内 日本天文学会 早川基金募集係

- 8. なお, 交付者には簡単な研究報告が求められます.  
 \* 早川基金内規 (天文月報第91巻第10号参照) による援助対象資格は「天文学会会員で, 原則として35歳以下の天文学研究者であって, この基金以外の海外渡航費 (滞在費を除く) の援助を受けない者。」です.  
 1999年度はこの後, 3月10日締め切りで1999年4~

6月出発分の募集を行う予定です. 応募希望者は書類等の準備をしてください.

訂 正

天文月報91巻9月号の月報だよりの454ページ及び会員名簿の訂正に誤りがありました. ここに訂正してお詫びいたします.

年会実行委員会委員に追加	加藤万里子
誤: 渡辺潤一	正: 渡部潤一
誤: 早川幸夫	正: 早川幸男
誤: 早乙女清次	正: 早乙女清房

(お知らせ)

宇宙科学啓発ビデオ第6弾「人工衛星」発売中

〈第7弾「ロケット」近日発売!!〉

文部省宇宙科学研究所では, 宇宙科学啓発ビデオ“宇宙へ飛び出せシリーズ”の第6巻「人工衛星」を制作, 財団法人 宇宙科学振興会より発売された. このビデオでは人工衛星の仕事や仕組み, また, 人工衛星の設計から打ち上げまでを, 臨場感あふれる映像とCGを使って分かりやすく説明している. 地球の回りには, さまざまな使命をもった人工衛星が回っている. これらの人工衛星はどのような機能が備えられているのか. 宇宙へ打ち出されるまでにどのような労力が費やされているのか. そして, 将来どのような計画があるのかも紹介している. 学校での理科や地学の教材としての利用をはじめ, できるだけ多くの方々に是非視聴してもらいたいビデオである. 教師や保護者を対象とした解説書付き.

第1巻から第7巻まで揃えてあります.

- タイトル=ビデオ宇宙へ飛び出せシリーズ第6巻「人工衛星」
- VHS / カラー / 25分
- 企画=文部省宇宙科学研究所
- 制作=株式会社イメージサイエンス
- 発売=財団法人宇宙科学振興会
- 定価=3,400円 (税込) / 会員価格=3,100円 (税込)
- お問い合わせ・お申し込み先  
 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内  
 社団法人 日本天文学会  
 電話: 0422-31-1359 FAX: 0422-31-5487  
 郵便振替: 00160-1-13595

ビデオ〈宇宙へ飛び出せ〉シリーズ

	定価	会員価格
第1巻 『宇宙をさぐる』 —ロケット・人工衛星—	VHS (カラー 25分) 3,300円	3,000円
第2巻 『母なる太陽』	VHS (カラー 28分) 3,300円	3,000円
第3巻 『オーロラのふるさと』 —地球磁気圏の科学—	VHS (カラー 25分) 3,300円	3,000円
第4巻 『ブラックホールをさぐる』	VHS (カラー 26分) 3,300円	3,000円
第5巻 『私たちの太陽系』	VHS (カラー 25分) 3,300円	3,000円
第6巻 『人工衛星』 —人工の星に魂を吹き込む—	VHS (カラー 25分) 3,400円	3,100円
第7巻 『ロケット』 —宇宙へのかけ橋—	VHS (カラー 24分) 3,400円	3,100円

送 料: 1本=500円, 2本=600円, 3本以上=700円

編集委員 末松芳法 (編集長), 上野宗孝, 大橋正健, 小谷太郎, 辻本拓司, 野口邦男, 平野尚美, 宮坂正大  
 平成10年10月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会  
 印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12 啓文堂 松本印刷  
 定価700円 (本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会  
 TEL: 0422-31-1359 (事務室) / 0422-31-5488 (月報・欧文編集) FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595  
 日本天文学会のホームページ <http://www.tenmon.or.jp> 月報編集 e-mail: [gjim@tenmon.or.jp](mailto:gjim@tenmon.or.jp)

〈お詫び〉 第91巻11月号 EUREKA「原始星エンベロープの構造と進化の観測的研究」(百瀬宗武・著)の図の掲載に誤りがありました。これは月報編集部での校正ミスで、著者には一切責任がありません。原因は2色刷りにおいて、青刷り原稿を別の図の上に重ねたために生じたものです。すぐに気づかないような仕上がりになっていたとはいえ、校正には細心の注意を払うべきでした。今後、このようなミスが起きないように注意していく所存です。ここにご迷惑をお掛けしたことを、著者並びに読者の皆様に深くお詫びするとともに、正しい図を再掲させていただきます。540ページの図に貼り変えて下さいますようお願い致します。(天文月報編集長 末松)

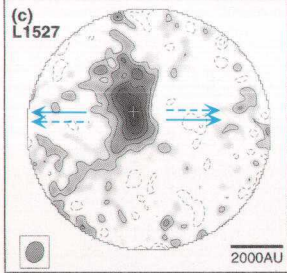
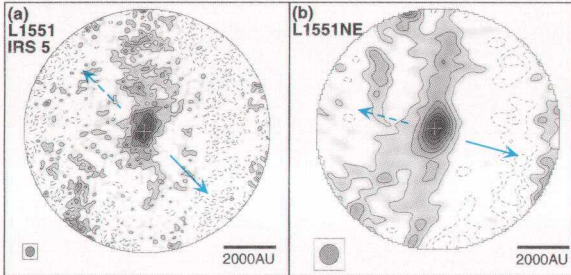


図3 NMAによって得られた原始星候補天体周囲でのC<sup>18</sup>O (1-0) 積分強度図。青の矢印は双極分子流の向き(点線が青方偏移成分, 実線が赤方偏移成分)。十字は星の位置を表す。左下の楕円は各観測のビーム。NMA素子アンテナの主ビーム応答を補正してある。出典:(a) Momose et al. 1998, (b) 百瀬(博士論文), (c) Ohashi et al. 1997.

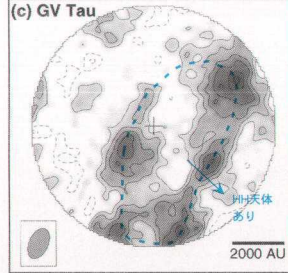
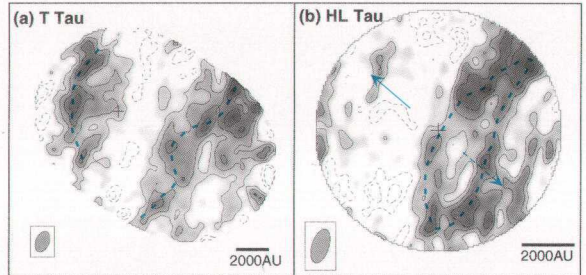


図4 NMAによって得られたフラットスペクトルTタウリ型星周囲でのC<sup>18</sup>O (1-0) 積分強度図。青の矢印は双極分子流の向き(点線が青方偏移成分, 実線が赤方偏移成分)。十字は星の位置を表す。左下の楕円は各観測のビーム。NMA素子アンテナの主ビーム応答を補正してある。青の破線はローカル・ピークをつないだもの。出典:(a-c) 百瀬(博士論文)。